



なんと！5年ぶり！

今月の18日(土)に学習発表会をします。もともと作品展と1年交代で実施していましたが、それにコロナ禍の3年間が加わって、前回の学習発表会をしたのは、平成30年のことです。ですから、実に5年ぶりの学習発表会の実施となります。その間、私も含めて多くの教職員が入れ替わりましたので、天王寺小学校の学習発表会を知る者はわずかになりました。保護者の皆様の中にも、本校の学習発表会をご覧になるのは初めてという方が多いのではないのでしょうか。前回の学習発表会では、子どもと一緒に鑑賞したようですが、その後児童が100人以上増えました。そのため、児童相互の鑑賞を前日の金曜日にして、当日は保護者のみの鑑賞という形に変えました。また、発表する学年の保護者には、運動会と同じように前方の座席でご覧いただけるように幕間に入れ替えを行います。しかし、そうした試みも初めてですので、ひょっとすると思わぬ混雑が起きるかもしれません。どうかスムーズな進行にご協力いただきますようお願いします。

学習発表会は、普段の学習成果を総合的に発表する活動を通して、豊かな表現力を育てることと、互いの発表を鑑賞して、それぞれの内容や表現の良さを味わうことを目的とした学校行事です。昔は、学芸会という名前で、秋の学校行事としてお芝居や歌や合奏などを披露していましたが、総合的な学習の時間が始まったあたりから、学習発表会という形で学習の成果を披露する今のスタイルになってきました。学校で学ぶ学習内容は、国語や算数のような教科だけでなく、各教科を横断的に扱った総合的な学習のほか、学級活動やクラブ活動のような特別活動などがあります。そうしたものをいろいろミックスさせて、一つの学習成果として発表するのが学習発表会なのです。

それでは、今年の学習発表会の内容を、先取りして少し紹介しましょう。

1年生は、朗読劇をします。国語科で学習したり図画工作科で版画を作ったりした物語を歌や朗読で表現します。2年生は、英語劇をします。朝のイングリッシュタイムで学習してきた英語の表現力を発揮した発表をします。3年生は、今年から始めた学習の発表です。社会科の調べ学習の発表をして、リコーダーの演奏を披露します。4年生は、国語科の学習発表です。これまでの学校生活を振り返り、自分の言葉で表現します。また、心を合わせた合唱で高学年に向けて気持ちを高めます。5年生は、社会科の産業について調べたことを発表します。内容がよりよく伝わるように、発表の方法も工夫しています。そして、6年生は、国語科や社会科の学習を発展させて、地域の未来像について発表します。調べたことを自分たちだけでなく区役所



の方にも見ていただいて、ブラッシュアップさせた内容にしています。それぞれ学年ごとに工夫されたバラエティー豊かなラインナップで、どれも楽しみです。

当日に向けて子どもたちは、学校だけでなく、ご家庭や学園でも練習や準備をしていることでしょう。もしそうした努力をしていれば、ぜひ励ましの声をかけてあげてください。しかし、中には、みんなの前で発表することが恥ずかしいと思う子や、そもそも人前で何かをすること自体が苦手な子がいるかもしれません。いや、きつというはずです。そうした子は、今自分ができる精一杯の力を出すことだけを頑張ってもらいたいと思います。失敗を恐れないでなんて言いません。誰だって人前で間違えるのは怖いものです。でも、その気持ちに正直に向き合いながらもそれを乗り越えてくれたらと思います。だって、舞台には一人で立つわけではありません。一緒に発表する仲間がそばにいますからね。ですから、不安のドキドキを期待のワクワクに変えられるよう、当日までしっかり取り組んでほしいと思っています。

最近、どんな本を読みましたか？

10月27日～11月23日は「秋の読書推進月間」です。学校でも、図書委員会の児童やPTAの皆さんが、図書室でいろいろなイベントを実施してくれます。



昨年度の大阪市学力経年調査では、「読書は好きですか。」という質問に、天王寺小学校で「好き」または「どちらかといえば好き」と回答した児童は、約77%でした。大阪市全体の平均が約75%でしたので、一見、本校の子どもがとびぬけて読書好きというわけではないように思えます。しかし、「好き」と回答した児童だけを見ると、約50%で、大阪市全体の平均よりも約10ポイント高くなります。学年によっては66%と、3人に2人が好きと答えるほど天王寺小学校には読書好きの子どもが多いようです。

学校では、少しでも本を読むのが楽しくなるように、毎年新刊本を購入しているほか、図書室の椅子を新調したり、写真のようなクッションソファを置いたりして、読書環境の改善を図っています。（けっこういいお値段なので、数年かけてちょっとずつすすめています。）また、朝の学習時間に読書タイムを設けて、読書の習慣づくりもしています。でも、何よりも最良の読書環境は、身近なところで当たり前のように本が読まれている風景でしょう。そう考えると、子どもに読書を薦めている大人はどうでしょうか。実は、私も仕事の本以外で読書をするのは、もっぱら通勤電



車の中だけで、自宅でゆっくり本を読むことは少なくなっています。（最近、電車の中でもみんなスマホを手にして、本を読んでいる人は少なくなりましたね。）

「読書の秋」です。このコラムをきっかけに、みなさんも1冊手に取ってみてはいかがでしょうか。